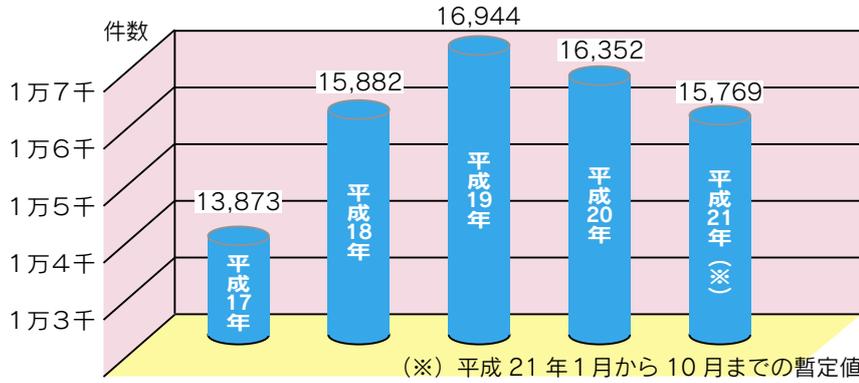


福岡県内での自転車盗 発生件数の推移



たかが自転車

されど自転車の話(四)

「鍵をかけてなくて、自転車がなくなりました。古い自転車だったので、戻ってこなくてもいいけど。」というような話をされる自転車盗難の被害に遭われた方がいます。

「たかが古い自転車1台が無くなった。」程度に思われているかもしれませんが、自転車盗で検挙される犯人のうち大部分は青少年が占めます。

少年非行に走るきっかけ、導入と言われる犯罪は、この自転車盗とシンナーな



どの薬物犯罪なのです。歩き疲れた子ども目の前に「鍵がかかっていない」自転車があります。あまり使ってなく、放置してある自転車みただから「持つて行ってもいいだろう！」と乗って行ってしまおう。

▲ 今回、街頭犯罪の中で自転車盗と青少年の非行との関連についての話を伺った、飯塚警察署 生活安全課の 松本正樹 課長。

「た次の時も同じように、そしてまた次の時も...。確かに、「盗みは悪いことだ！」という教育も必要ですが、私たち自身も「きちんと鍵をかけ、盗らせない。」ようにしなければいけません。自転車の1つ2つの鍵が、青少年の人生をも狂わせてしまうこともあるという話を、ぜひ皆さんに分かってもらいたいです。」

「ちよつとでも自転車から離れる時は、鍵をかける習慣をつけましょう。その鍵こそが、自分の自転車を盗難から守る鍵となり、青少年などの非行防止への鍵になり、ひいては安全・安心な町づくりへの鍵となります。」

本年の飯塚署管内における街頭犯罪全体の件数は、昨年同時期にくらべ減少しているそうです。桂川町でも、本年1月の青パトの導入をきっかけとして、住民の皆さんの防犯意識の高まりなどが、街頭犯罪を減少させている要因だと考えられます。

少年非行防止への鍵!